

課題 ガウス素数

ガウス素数を求めて表示するプログラムを作成せよ。プログラムは以下の仕様を満たすようにすること。

1. `get_command_argument` などを用いてコマンドライン引数として正の整数 n を受け取る。
2. 実部および虚部が $-n \leq i \leq +n, -n \leq j \leq +n$ の範囲のガウス整数について、ガウス素数を判定する。
3. ガウス素数の位置には 1 を、そうでない位置には 0 を出力する。

実行例は以下の通り：

```
1: $ ./a.out 5
```

gnuplot を用いて以下のように表示すると美しい幾何学模様が得られる。

```
1: $ ./a.out 20 > data.data
2: $ gnuplot
3: gnuplot> set palette gray negative
4: gnuplot> plot 'data.dat' matrix with image
```

ガウス整数とガウス素数の定義

以下では実部が a 、虚部が b の複素数を (a, b) と表すことにする。このときガウス整数とは、整数 i, j に対して、 (i, j) の形で表される複素数のことである。

また、ガウス素数 (i, j) を、自明な約数 $(\pm 1, 0), (0, \pm 1), (\pm i, \pm j), (\mp j, \pm i)$ 以外の約数を持たないガウス整数として定義する。

アルゴリズム

ガウス素数の判定には、以下のエラトステネスのふるいの複素数への拡張版を用いよう。ただし、 $0 \leq i \leq n, 0 \leq j \leq n$ の範囲のガウス整数を扱い、表示の際には i および j の符号反転に対する対称を用いてよい。

1. 2次元の論理型配列 `is_prime` を用意する。この配列の要素 `is_prime(i, j)` は、ガウス整数 (i, j) がガウス素数であるかどうかを示すフラグである。
2. 初期には $0 \leq i \leq n, 0 \leq j \leq n$ の範囲のガウス整数を全て素数であると仮定し、対応する位置に `.true.` を設定する。ただし、 $(0, 0), (1, 0), (0, 1)$ はガウス素数ではないので、`is_prime(0, 0), is_prime(1, 0), is_prime(0, 1)` を `.false.` に設定する。
3. 配列を順に走査する。走査中の位置 (i, j) に対応するガウス整数 (i, j) について、`is_prime(i, j)` が `.true.` であれば、それはガウス素数の候補である。ガウス素数の候補に対して、以下の処理を行う。
 - ▷ ガウス整数の乗算が $(i, j) \times (l, m) = (il - jm, im + jl)$ で定義されることを用いて、ガウス素数の候補 (i, j) に対して、その倍数を素数の候補から取り除けばよい。具体的には、 $l = 1, 2, \dots$ のそれぞれに対して、 $(il, jl), (il \mp j, jl \pm i), (il \mp 2j, jl \pm 2i), \dots$ に対応する位置の `is_prime` を `.false.` に設定する。また、対称性から `is_prime(i, j) = is_prime(j, i)` となることを用いてよい。
 - ▷ ただし、 $l = 1, m = 0$ に対応する、`is_prime(i, j)` は `.true.` に設定する（元に戻す）。

これらが終了した後最終的に、`is_prime` が `.true.` になっている位置に対応するガウス整数がガウス素数となる。